



# AKT/O UNDERAGE BEACH VOLLEYBALL ACADEMY



## ビーチバレーボールに取り組む高校生を応援! 「AKTIOアンダーエイジ・ビーチバレーボール・アカデミー」開催。

ビーチバレーに取り組む高校生を応援する「AKTIO アンダーエイジ・ビーチバレーボール・アカデミー」がスタートした。記念すべきvol.1が2022年8月28日(日)、東京都立川市タチヒビーチで開催。そこにはトッププレイヤーの教えと向き合い、真剣に楽しく学ぶ高校生プレイヤーの姿が見られた。

撮影/松永和章、菊池亮佑

このイベントの協賛社である株式会社アクテオ(総合建設機械レンタル事業)は、2018年より「マイナビジャパンツアー」のツアーオフィシャルスポンサー、2022年には「アクテオ杯ビーチバレーボール・ジャパン・チャレンジ2022」の冠スポンサーを務めてきた。

トップクラス、大学生に続いて「AKTIO アンダーエイジ・ビーチバレーボール・アカデミー」では、高校生を支援。その裏には「若者のチャレンジを応援し、世界に飛躍していく人材育成や挑戦する機会を作っていく」というコンセプトが存在する。

vol.1は、東京五輪代表の村上めぐみ(立飛ホールディングス)、東京五輪アジア予選に出場した坂口由里香を講師に迎えた。株式会社アクテオ 広報部長・進浩氏の開会式での挨拶を皮切りに幕が上がリ、高校生男女26名が躍動した。

午前中は、砂の上で速く動く、高くジャンプすることを目的としたダッシュやステップなどを取り入れたウォーミングアップからスタート。練習メニューは、単純に基本技術を反復で練習するのではなく、常に実戦を想定し意識しなければいけないポイントなど講師陣から伝授していった。

例えば、攻撃では「攻撃の軸」を相手に見せることを意識すること、守備ではブロックをつくことを前提にしたディフェンスの戦術、風を利用したパス、トスの上げ方など2人制ならではの戦い方をテーマに指導が行われた。

### 普段やったことがない練習に取り組めた

午後は午前学んだことを念頭に置き、サイドアウト力を高める勝ち残りゲームを



D. 低い位置のボールを拾うディグの基本練習 E. 攻撃の軸を意識してスイングするスパイク練習 F. 2人制ならではの起こりえることを意識して実践 G. 基本練習で実践したことをゲームに活かす



行った。午前は真剣なまなざしで講師陣の話を聞いていた参加選手たちだったが、実際のゲームになるとコートに笑い声が響いた。終始、明るいムードで上位および下位トーナメント戦が行われ、最後にそれぞれ勝者を決めた。

栃木国体に出場した埼玉代表の黒木千暖/山澤水月組(ともに星野高)は、「オリンピック選手に教えてもらうのは初めてだったし、普段やったことがない練習に取り組めてとてもためになった。お互いに成長してチーム力を高めていきたい」と意欲を燃やしていた。

下位トーナメントで勝者に輝いた長沢央生/金光和泉組(ともに浦和高)は「とても楽しかった。自分が課題にしていた技術はまだできるようにはなっていないけれど、自信がついた。大学に行っても楽しくビーチバレーを続けたい」と笑顔をのぞかせた。

講師を務めた村上めぐみは「これまで体験会の経験はありましたが、アカデミー形式で教えるのは自分自身初めて。競技の本質や方向性を示しながら、集中するところは集中する、楽しむところは楽しむという空気を作るように心がけた。最終的には高校生たちがビーチバレーの魅力を理解し始めて勝手に楽しんでいく雰囲気を作ることができたのでよかった」と振り返った。

株式会社アクテオ広報部の進氏は「ビーチバレーを世代別に応援していくことで、今回参加した高校生の皆さんが今後さらなる活躍をしてくれることを願っています。またこのアカデミーで体験したことをひとつでも忘れずにこれからの人生に活かしてほしいです」と激励のメッセージを送った。2022年度は年3回、関東近県で開催を企画している。



H. ゲーム形式の練習では笑顔がはじけた I. 他校の選手とも交わり、フレンドリーに J. 楽しむところは楽しむ。笑いにあふれたアカデミー K. 参加選手には株式会社アクテオのオリジナルノベルティを贈呈



A. 東京2020代表の村上めぐみが講師として参加 B. 女子選手とコミュニケーションを図る講師の坂口由里香 C. 真剣なまなざしで話を聞く参加選手たち